

科目名	環境の指導法				担当	内保 亘		
形態	演習	単位数	1	開講時期	1年後期	実務経験	認定こども園 ちいろばの杜園長	
必修	幼免：必修 保育士：必修				ナンバリング	Y3105	DPとの関連	3
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが環境との関わりを通して育つということの意味について理解を深める ・子どもの保育の日常生活を基盤として、「環境とは何か」という問いを追求していく ・子どもの自然体験や社会生活との関わりの中で生まれる事例を基に、保育内容の計画・立案・展開・評価の方法について学ぶ ・身近な環境に触れ、環境の豊かさを知った上で、自分なりの保育環境をデザインする 							
到達目標 学習成果	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが育つために必要な環境の重要性や様々な環境の存在について理解できる ・学生自身が環境を通して何を感じるかを意識的に捉えるところから自己理解を深めるところから始め、子どもや関わる全ての人が生きる環境を考え、環境構成や保育計画を練ることができる ・環境を、五感を通して感じることができ、「環境とは何か」を自分の言葉で語るができる 							
授業計画	回	内容						
	1	出逢い①（野外）：野外でのワーク①（野外で遊ぼう・環境に触れよう）						
	2	出逢い②（野外）：野外でのワーク②（野外で遊ぼう・環境に触れよう）						
	3	出逢い③：保育内容「環境」のイントロダクションと保育の基本について						
	4	出逢い④（野外）：野外でのワーク③（野外で遊ぼう・環境に触れよう）						
	5	自分を知る①：自分と人と環境と						
	6	一歩立ち止まる：環境におけるリスクとハザード、そしてその考え方（演習）						
	7	出逢い⑤（野外）：野外でのワーク④「自然を感じながら遊んでみる」						
	8	チャレンジする①：一つの環境から遊びを、考えてみる（グループワーク）						
	9	チャレンジする②：一つの環境から生まれた遊びを、共有する（模擬発表）						
	10	チャレンジする③：一つの環境から生まれた遊びを、指導案におこす（グループワーク）						
	11	自分を知る②：自分という環境を見つめる						
	12	一歩進む①：「わたしたちの理想の園」を考える①（グループワーク）						
	13	一歩進む②：「わたしたちの理想の園」を考える②（グループワーク）						
	14	一歩進む③：「わたしたちの理想の園」を考える③（グループワーク）						
15	一歩進む④：「わたしたちの理想の園」を発表する（プレゼンテーション）							
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが育つために必要な環境の重要性について理解する ・環境を通して子どもが育つとはどういうことかを知る ・「固定観念」を外し、変化する自分を恐れず、むしろ受け入れる 							
評価方法	最終発表への意欲的な参加と発表内容 50% 演習や個人・グループワークへの積極性・意欲・関わり 40% 授業への意欲的な参加と出席（毎回の問い・対話シート提出） 10%							
フィードバック 方法	毎回の小レポートを通じた対話や、日常の対話							
アクティブ ラーニング	学び合い形式のグループワークと個人ワークが主となる。 序盤は、野外でのワークを行い、遊びを通して多様な環境に出逢うことを目的にする。							
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領 保育所保育指針原本』 ・『思いをつなぐ保育の環境構成 4,5歳児クラス編』お茶の水女子大学こども園著 ・適宜授業で資料を配付する 							
参考書	・R・カーソン著「センスオブワンダー」新潮社							
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・野外活動を行うため、毎回寒暖による服装は各自考えて登校する（*帽子を持参すること。活動しにくい靴は控えること *雨天時は、室内での活動に切り替える） 							
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・演習したことの振り返りをまとめる ・適宜指示をする 							
オフィスアワー	・授業中に伝える							